

大会名 Competition	日本スポーツマスターズ秋田大会2016 女子の部
女子準決勝	Year Month Day Time 2016 年 9 月 26 日 14 : 30
場 所 Place	三種町琴丘総合体育館



秋田県バスケットボール協会

チームA		チームB										
長野	<table border="1"> <tr><td>8 1st</td><td>24</td></tr> <tr><td>14 2nd</td><td>16</td></tr> <tr><td>11 3rd</td><td>10</td></tr> <tr><td>16 4th</td><td>16</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	8 1st	24	14 2nd	16	11 3rd	10	16 4th	16	OT		埼玉A
8 1st	24											
14 2nd	16											
11 3rd	10											
16 4th	16											
OT												
49 ●		66 ○										

主審:Referee
藤田 和 広 秋田

副審:Umpire
工藤 清 華 秋田
森 由美子 秋田

テーブル・オフィシャル:Table officials
県立能代松陽高等学校女子バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	根津 由香	CAP	7	1	1	2	0	3	／	河田 滋子		0	0	0	0	1
5	×	武藤 優子		0	0	0	0	3	4	×	江森 ゆかり		13	0	6	1	2
6	×	竹田 さゆり		19	0	5	9	3	6	×	尾川 由佳	CAP	18	2	4	4	2
7	／	吉田 恭恵		0	0	0	0	1	7	×	椎名 麻奈美		19	2	5	3	4
8	×	三井 久美子		2	0	1	0	1	8	×	竹園 幸代		3	0	1	1	1
9		小林 小百合		-	-	-	-	0	9	／	染葉 和美		9	3	0	0	2
10	／	片桐 忍		10	0	2	6	1	12		高橋 久美子		-	-	-	-	0
11	×	原 佐恵子		7	1	0	4	3	16		佐々木 亜希代		-	-	-	-	0
12	／	金子 悦子		2	0	1	0	3	19		菅田 まさみ		-	-	-	-	0
13	／	竹内 順子		2	0	1	0	1	24		中村 真寿美		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	-	25	／	高田 晃子		0	0	0	0	0
				-	-	-	-	-	35	×	山口 恭子		2	0	1	0	3
				-	-	-	-	-	51	／	深沢 裕美		2	0	1	0	5
				-	-	-	-	-	55	／	松本 泉		0	0	0	0	3
				-	-	-	-	-					-	-	-	-	-
				-	-	-	-	-					-	-	-	-	-
				-	-	-	-	-					-	-	-	-	-
				-	-	-	-	-					-	-	-	-	-
コーチ		小山 ひろみ							コーチ		竹園 幸代						
Aコーチ		竹田 さゆり							Aコーチ		岩谷 秀明						
合計				49	2	11	21	16	合計				66	7	18	9	23

※×:スターター 〃:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

準決勝第2試合は前年度3位の長野県選抜Aと前年度準優勝の埼玉県ブルーインズ・レッツの対戦となった。第1Q:両チーム共にマンツーマンディフェンスでスタート。立ち上がり、埼玉は#8竹園のゴール下と#7吉田の3Pで好スタートを切る。対する長野は#6武田のインサイドで対抗するも、埼玉は#4江森のスティールや#7椎名の3Pで突き放す。12-3と埼玉がリードしたところで、長野はたまたまタイムアウトを取る。その後も長野は#6竹田を軸に攻撃するも、埼玉はスティールからの速攻や3Pなどで加点し24-8の埼玉リードで第1Qを終了する。第2Q:長野は#11原の3Pが決まるも、埼玉は#6尾川のゴール下や#9染葉の3Pなどで主導権を渡さない。長野は埼玉の運動量豊富なディフェンスに苦しみながらも果敢にリングに向かい、フリースローや#13竹内のゴール下で追いつくも、埼玉も#6尾川の3Pや#51深沢のゴール下などで追撃を許さず、40-22の埼玉リードで前半を折り返す。第3Q:流れを変えたい長野は、#8三井のドライブや#6竹田ゴール下で先制するも、埼玉は#7椎名のミドルや#35山口のゴール下で一進一退の攻防が続く。残り5分過ぎには、両チーム共シュートの精度が落ち始めるが、お互いに意地を見せ、50-33の埼玉リードで最終ピリオドを迎える。第4Q:埼玉は、#4江森と#6尾川のスティールからの速攻やジャンプシュートで一気にたたみかける。長野も#4根津の3Pで応戦するも単発で終わり苦しい展開。試合終盤も埼玉は手を緩めることなく終始試合を支配し、66-49で埼玉が決勝進出を決めた。

長野の気持ちを前面に出した戦いぶりと、埼玉の豊富な運動量でタフに動き続けたプレーに、パワーをもらった一戦となった。